

第296回例会

東照宮へ、ロマネスク日光街道③

日時：2022年10月2日（日） 天候：快晴 歩数：24000歩 距離：14km

集合：東武伊勢崎線草加駅 9時45分

コース：草加駅→藤城家→大川本陣跡・清水本陣跡→神明あじさい公園→歴史民俗資料館→東福寺→甚左衛門堰→草加宿芭蕉庵→矢立橋→まつばら綾瀬川公園→蒲生の一里塚→清蔵院→照蓮院→小泉家→越ヶ谷御殿碑→久伊豆神社→天獄寺→大沢香取神社→北越谷駅

参加者：熊坂(L) 小田(L) 奥村(SL) 勅使河原 吉越 五十嵐志 五十嵐し 平石 高橋文 青松 奈良 長谷川慶 清水 伊藤美 市村 高橋友 脇坂 飯田 鹿島 山口 篠三浦栄子(一般 この日クラブ加入) 計22人

「東照宮へ、ロマネスク日光街道」3回目は、草加せんべい発祥の地の草加駅からスタート。雲ひとつない青空、朝晩は秋の気配がただよい、空が高くなってきたように感じます。どなたかが「晴れていても雲ひとつない天気は、年に数日もない」と教えてくれました。好天に恵まれましたが、歩いているうちにどんどん気温が上がり真夏日を思わせる日和。さいたま市のこの日の最高気温は29.1℃でした。

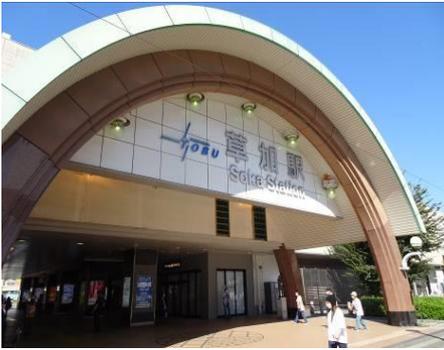
「見どころの多い草加宿や江戸の原風景が残る草加松原を歩きます」の呼びかけに、22人が参加。まさに見どころいっぱいのロマネスク日光街道を満喫しました。



矢立橋

草加駅 10時スタート～藤城家住宅～大川本陣跡～神明あじさい公園

草加駅東口「せんべいを焼いているおせんさんの像」広場で、熊坂リーダーがコース説明。サブリーダーは小田さんと奥村さん、一般参加の三浦栄子さんが紹介されました。おせんさんに見送られて10時丁度にスタート、旧日光街道に出て最初に訪れたのが藤城家住宅。日光街道の宿場・旧草加宿のほぼ中央に位置し、江戸時代以来の宿場の面影を今に伝える建造物です。少し進むと江戸時代に奥州日光道中参勤交代の大名休憩所として本陣がおかれた大川本陣跡と清水本陣跡の碑がありました。草加小学校校門前を通り、神明あじさい公園へ、熊坂さんのリードでストレッチを行いました。



あじさい公園～歴史民俗資料館～東福寺 大川図書の墓～草加せんべい

あじさい公園を出て歴史民俗資料館へ。資料館の建物は、大正15年（1926年）に埼玉県で初めて建てられた鉄筋コンクリート造りの校舎で国の有形文化財に登録されています。スリッパに履き替えて館内を見学、磁石式電話機、ブラウン管テレビ、氷冷蔵庫、蓄音機などが展示されていて、「ダイヤル式の電話、今の子は使えないよ」「氷冷蔵庫は家にもあった」「蓄音機懐かしい」などの声が聞こえてきました。東福寺へ、墓地から入り草加宿を開いた大川図書の墓を参拝。江戸時代後期建造の本堂、鐘楼と進み、山門を出て再び旧日光街道へ。源兵衛せんべい屋と志免屋で、お土産に名物草加せんべいを購入しました。



きんもくせい～おせん公園 曾良の像～札幌河岸公園～甚左衛門堰

街道右側を縦一列になって進んで行くと何やら強い香り、民家の庭にきんもくせいの木がありました。道路左手に「川の駅そうか村」の趣ある建物がありました。この日はスルー。県道足立越谷線と交わるところに市民の憩いの場となっているおせん公園があり、一角に芭蕉の弟子で奥の細道に随行した河井曾良の像が建っています。視線の先は奥の細道でしょうか。草加せんべい発祥の地碑もありました。伝右川河岸を歩いてくと札幌河岸公園に出ました。公園の先に2連アーチ型のレンガ造りの水門が見えてきました。灌漑や増水のために使用された堰で、現存する堰は明治27年（1894年）に再建されたものです。



望楼 草加の地名の由来 松尾芭蕉像～矢立橋～まつばら綾瀬川公園

望楼のある今様草加宿のエリアへ、望楼の内部は螺旋階段になっていて上からは草加松原を見渡せます。遊歩道進行方向に太鼓型の矢立橋を望むことができました。望楼のところの説明板に、草加のことが「日光道中の千住と越谷の間は沼地が多く、大きく迂回して通っていた。そこで大川図書という人が奥州街道を真っすぐにする新道を1606年に開いた。このとき沼地の造成に沢山の草が用いられたことから草加と呼ばれるようになった」と書かれていました。松尾芭蕉の像を見て、矢立橋で集合写真。11時40分、まつばら綾瀬川公園に到着。水場ではこどもが歓声をあげながら遊びに夢中。日差し強く風もなく暑い、日影を見つけて昼食タイムです。



ハーブ橋～奥の細道風景地～百代橋～蒲生大橋～一里塚～藤助河岸跡

12時15分、午後のスタート。とは言っても地図では行程の5分の1も歩いていません。北越谷駅めざして一路北上です。綾瀬川に架かるハーブ橋を渡ります。草加松原は、松尾芭蕉の「奥の細道」時代の雰囲気の色濃く伝える風致景観として国の名勝指定地です。太鼓橋の百代橋を渡り、綾瀬川右岸を15分ほど進むと東京外環自動車道と交差、さらに5分ほど進み蒲生大橋を渡り東岸へ。埼玉県内日光街道筋に現存する唯一の一里塚、蒲生一里塚に着きました。「いにしへの旅人も木立に覆われたここの一里塚で一息入れたのでは」と思いを馳せませす。綾瀬川沿いに藤助酒店があり、江戸時代から大正まで船運が盛んだったころの藤助河岸跡がありました。



蒲生一里塚～清蔵院 山門欄間の龍の彫刻～14時22分 清蔵院

蒲生一里塚を出ます。青空が広がり雲一つありません。綾瀬川左岸を上流へ、しばらくして綾瀬川は西へ分かれて行きお別れです。さらに北上して13時15分、清蔵院に着きました。山門欄間の龍の彫刻は左甚五郎の作といわれ、夜な夜な山門を抜け出して田畑を荒らしたことから、これを金網で囲ったといわれています。しかしみなさん、龍の彫刻を判別できませんでした。ここで行程の半分、地図の2枚目に入りました。「ここから次の見所照蓮院までは長いですよ」とリーダー、少し進み公園で小休憩。ここで一般参加の三浦さんのクラブ加入が発表され、一同歓迎の拍手。長い列になり14時22分、清蔵院に着きました。午後約2時間歩いてきました。



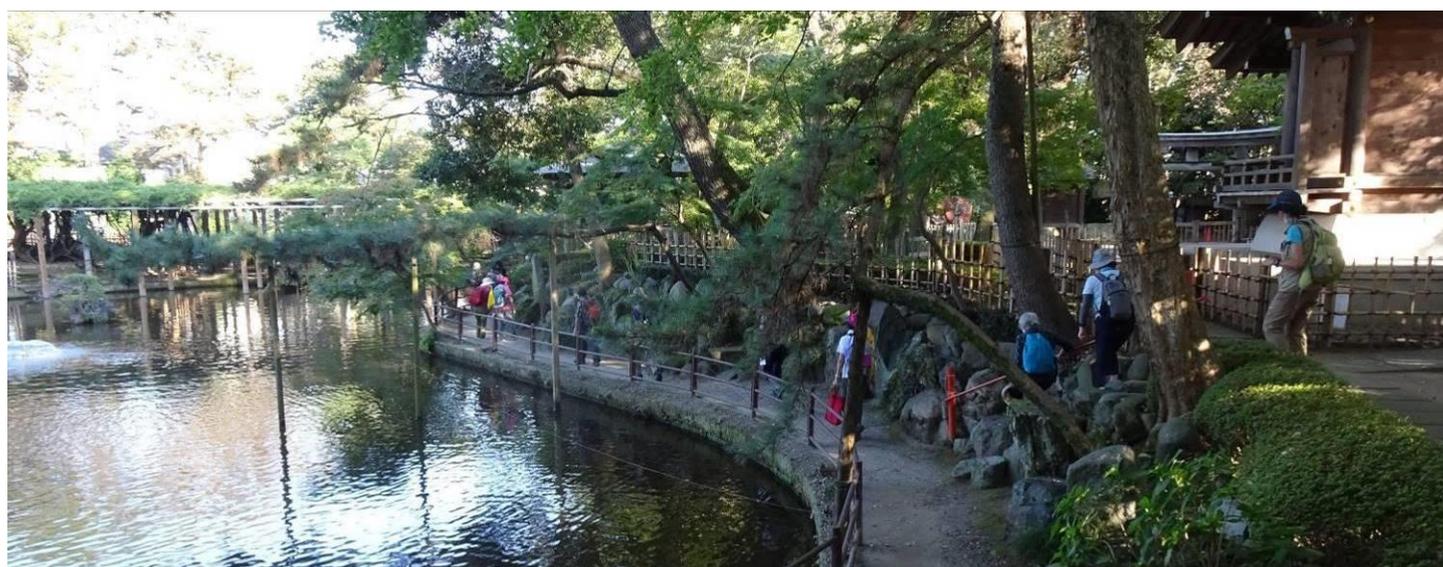
清蔵院～アイスクリームタイム～小泉家～元荒川～越ヶ谷御殿跡

午後2時間歩きで暑さも少しお疲れ、木陰で小休憩。少し進んで待望の「日光街道ウォーキング御用達」のコンビニでアイスクリームタイム。元気がでたところでスタート、昭和の香り漂う理容店がありパチリ。さらに進み越谷宿で現存する古い建物で唯一、店舗と蔵が横に並ぶ小泉家を外から見学。元荒川に出て、日光街道を外れて下流の東方向へ、木陰が身体に優しく感じられます。徳川家康が鷹狩りのために建てた越ヶ谷御殿の跡に到着。石柱のところで3人の少年が釣りをしているかなりの釣果でした。徳川家康の鷹狩りのための御殿は平塚にも、江戸からの中原街道を経て中原御殿があります。家康は関東平野で広く鷹狩りをしていたことが伺えます。



宮前橋～久伊豆神社 樹齢200年の藤 龍の絵の手水舎 池の周りを散策

御殿跡をさらに進み元荒川に架かる宮前橋を渡ります。渡り切ったところが、平安時代から除災招福の神として信仰を集めてきた久伊豆神社です。長い石畳の参道を進むと、3つ目の鳥居の先に樹齢200年と言われる藤の木が見えてきました。見頃は5月初旬のようで、東西20m、南北30mの棚に枝を広げています。手水舎の所にみなさんが集まっています。龍の造りの口から手水が出てきていて、天井には見事な龍の絵が描かれています。趣のある広い池のまわりをゆっくりと散策して藤棚へ戻りました。



久伊豆神社参拝～天獄寺～再び日光街道へ～香取神社～東武北越谷駅

参拝を済ませて長い参道に戻り、隣の天獄寺へ入ります。時刻はそろそろ16時、境内を歩くみなさんの影が大分長くなってきました。天獄寺は、天正19年（1591）に徳川家康より15石の寺領寄進朱印状が交付されています。小田さんが「ここのお寺、葵のご紋の使用も許されているのよ」と教えてくれましたので、本堂などを見て見ると、瓦屋根や玄関入口のガラス戸などに葵の紋を確認できました。寺を出て元荒川左岸を上流へ、再び日光街道に出て16時27分、香取神社に到着。ここでクールダウン、歩数2万4000歩で距離は14mでした。少し歩いて16時45分に東武北越谷駅に到着しました。

次回④のウォーキングは11月26日（土）、また見どころいっぱいのコースのようで楽しみです。

